

主な被災箇所と応急対応

E32高知自動車道

E32高知自動車道では斜面崩壊が発生し、橋が流出

●E32高知自動車道 新宮IC～大豊IC間において、大規模な斜面崩壊が発生し、上り線の立川橋の橋桁(1,200t)が流出しました。



写真①
写真②

国土地理院地図より作成
立川PA

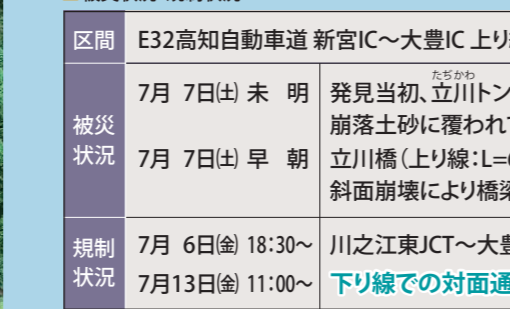
「崩壊規模」

- 幅 約90m
- 長さ 約320m
- 深さ 約2.5m
- 流出土砂量 約45,000m³

ドローン調査及び地形図からの推計値



雨量履歴



被災状況・規制状況

区間	E32高知自動車道 新宮IC～大豊IC 上り線 (78.26KP)	
被災状況	7月 7日(土) 未明	発見当初、立川トンネル南坑口が崩落土砂に覆われている状況を確認
	7月 7日(土) 早朝	立川橋(上り線:L=64m)が斜面崩壊により橋梁上部工の流出を確認
規制状況	7月 6日(金) 18:30～	川之江東JCT～大豊IC 通行止め
	7月 13日(金) 11:00～	下り線での対面通行開始

遠隔操縦式バックホウを貸与し、復旧作業で活躍

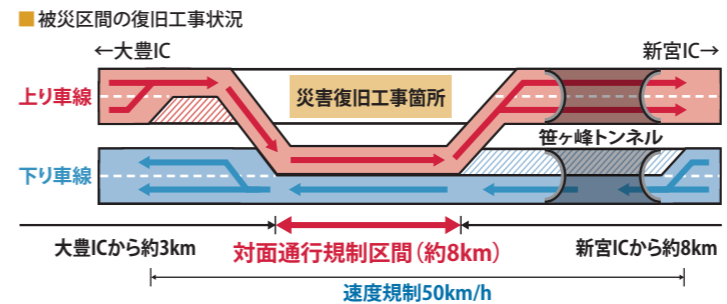
- NEXCO西日本から四国地方整備局が所有する「遠隔操縦式バックホウ」の貸与要請がありました。
- 被災した立川橋周辺で二次災害防止のため、「遠隔操縦式バックホウ」を使用しました。



下り車線を活用し、早期の通行を確保

●E32高知自動車道は上下分離4車線であることから、被災を免れた下り車線を活用することで7月13日11時に対面通行を開始しました。

E32高知自動車道の下り車線を活用し、7月13日11時に対面通行開始!



ダブルネットワークにより、高速道路通行止めの影響を緩和

- 国道32号が早期復旧したことにより、E32高知自動車道の通行止め時の代替路として機能しました。
- 7月14日(土)～16日(月・祝)の連休期間にはダブルネットワークに戻り、交通量が降雨期間前より増加。観光や復旧活動に貢献しました。

国道32号への迂回により、広域的な移動が可能に!

